道標ない旅

～「自立」と「共生」を目指して～

平成３１年４月１９日（第3号）

校長　益田　孝彦　８７５－９４９４

◆◆　新入生オリエンテーションで各部活動の紹介がありました。　◆◆

中学校生活を彩る重要な要素の一つは、部活動であることは、皆さん感じていられることと思います。４月１０日に開かれた生徒会オリエンテーションにおいて、各部活動の先輩が新入生に対し、その活動の一端を披露しました。

オープニングをつとめた科学部の紹介が、制限時間ピッタシに終わったので、「おーっ！」と歓声が上がり、いいムードになってから、紹介はなごやかに時間通り進行しました。

新入生はこの日以降、思い思いに借り入部期間を活用して、自分に合った部活を探したり、心に決めていた部活に参加したりしていました。

仮入部期間は１８日までとなり、１９日一斉入部を迎えます。学校としてはどの部活動にもいい感じで部員が集まればいいなとも思いますが、なかなかそううまくはいかないものです。今年はどんな感じになるのでしょうか。写真で紹介された方が有利と、考える方もいたので、なるべく影響の出ない時期まで待っての紹介となりました。

◆◆　土曜参観お待ちいたします。　◆◆

その日は、教育課程の説明や評価の説明会なども開かれます。駐車場については上ノ山公園をお借りしていますが、左側の第２駐車場のみと約束しています。右側の駐車場は一般の方の利用となります。今後の土曜日利用が３回あります。トラブルは避けたいので、自主的にルールを守るよう何卒お願い申し上げます。

◆◆　「置き勉」への対応状況をお伝えします。　◆◆

昨年の９月文部科学省から、「生徒の携行品の重さや量について改めて御検討の上、必要に応じ適切な配慮を講じていただきますようお願いします。」といった事務連絡がありました。ＴＶなどでもかなり話題になりました。
本校で採った保護者アンケートでも、「カバンが重くて、自転車の運転が心配です。宿題に関わらないのものは学校に置けるよう検討してほしいです。（当時の三年）」「リュックが重くて、家で勉強もしないのに置勉がダメな理由がよくわからない。必要なものだけ持ち帰ればいいと思う。（当時の一年）」といった意見が寄せられました。
去年の生徒主張文では、（一部省略して紹介します）
「私たち小・中学生は、毎日重い荷物を背負って学校に通っています。･･･私の通学路は坂なので気がついたら、腰を曲げて歩いていたり、肩が痛くなったりします。このままだと腰痛や肩こりの一因になる恐れがあるのです。･･･先生と生徒との「信頼関係」が重要です。信頼関係を築くには私たちが学校生活を見直して、「忘れ物を減らす。自宅学習をおこたらない。教室やロッカーの整理を自らする。」など、意識を変えて先生たちに私たちの出来るところを知ってもらう必要があると思います。その上で、「置き勉可能」になれば良いと思います。そして、私が本当に伝えたかったことは、「置き勉可能」にするならばそれは、自分たち次第だということです。
といった、大変すばらしい主張がありました。
学校としても、近年の教科書の重量化などを考慮し、各学年に「置き勉可能」な対象物の拡大を検討いただきました。

写真は４月からの「置き勉」対応状況です。対応範囲が広がった場合、現時点では教員独自に持ち込んだ書棚等で対応している状態です。
確認したところ、「置き勉」していい対象範囲は、従前の南郷中学校の状況より広がっています。とはいえ、登校途中の生徒の様子を見る限り、まだ重そうに歩いている生徒を見かけます。「置き勉」には置いていくものが安全に守られる学校側のスペースが必要となります。急に何でもどうぞとはいえない事情があることはどうかご理解ください。今後どこに保管すればいいかなどさらに検討していきたいと思います。

◆◆　１学年町づくり展見学におけるバス利用ついて　◆◆

まず結論から言えば、マイクロバス２台によるピストン輸送にて実施します。

本校の総合的な学習の時間は、本年度より①ＦＧＣ活動②進路学習③平和学習④公民学習の４本柱で、３年間を通し、葉山を愛する若者を育成していきます。その最初のきっかけとなる「町づくり展の見学」は、これからの活動の原動力となるとても大切なものと考えております。
昨年度末よりお伝えしたとおり、この日のバス予約は遠足シーズンでもあり、京急・江ノ電・神奈中・東洋観光・横バス・三浦観光バスと当たって、成立しないでいました。
この窮状を心配してくださった町づくり協会様からは、参加団体でもある山楽会様などと連絡を取り、南郷中から山を越えて福祉文化会館まで葉山ウォッチングしながら向かう計画を提案くださり、実際に町づくり協会や山楽会のメンバーの方々が、安全確認のための下見までして、準備を進めてくださっていました。
一方、学校としては何回かの提案を通して、雨天になってしまった場合の手当が難しいこと、せっかくご準備いただいた中、万が一けが人が出てしまったとき責任が持ちきれないのではといった懸念を払拭できず検討を続けました。そのような中、森岡教頭から、ＪＴＢに頼めば活路が開けるかもと提案があり、教頭自ら折衝に当たりました。その結果横浜のバス業者が２８人乗りマイクロバス２台を、営業所発で営業所戻りを５時間以内の契約で引き受けてくれることになりました。
来年度以降もＪＴＢは、同様の対応なら見通しが立つとの返答を頂きました。課題は、バス料金になっていくと思います。今回町づくり協会の皆様や山岳会などの関係者の皆様には大変なご心労やご尽力を頂きました。改めて感謝申し上げます。